

平成 17 年度

年 報

第 13 号

四日市市立博物館

四日市市立博物館の使命

1 市民の創造性を高めます。

これからの豊かなまちづくりには市民の創造性が必要です。文化の振興によって創造性豊かな人材を養成し、市民の活力を引き出して都市の力を高め、市外からも創造的な人材が集まるようにして魅力ある都市を形成していくことが理想です。その実現のために四日市市の文化資産のひとつである市立博物館は、市民一人ひとりの多様な個性に対応し、文化の多様性を認め合いながら、それぞれがより豊かな個性に育っていくよう、多彩な内容のものを学習できる機会を作っていきます。これまで地域に培われてきた文化を伝えるだけでなく、市民一人ひとりの個性の創造に寄与してその成果として現れる新たな文化の創造に尽くしていきます。

2 郷土を大切にすることを育みます。

郷土から世界の国々、果ては宇宙に至る多様な自然、歴史や文化について、様々な角度から取り上げます。直接あるいは他地域との違いにより間接的に郷土に対する市民の理解を深め、そのことにより、よりよいまちづくりの基盤を形成し、郷土を大切にすることを育むとともに、他の地域や外国との発展的な関係を生む基礎を形成します。

3 世代をつなぎます。

これまで当博物館は、公立の施設としての特色を活かして、郷土の先人が創り出した文化遺産を保全し、知識を蓄えてきました。これらは、郷土のかけがえのない文化的財産であり、今後もこれらの蓄えを増やし、効果的に運用しながら確実に次の世代に引き継ぎ、世代と世代をつないでいきます。また、これらの文化的財産を活用した世代間の交流の場をもち、継続的に市民文化を継承するとともに、この地域の新たな特色ある文化の創造に寄与します。

4 歴史を未来に活かします。

四日市市立の当博物館は、四日市市の行政組織のひとつとして、これまでに蓄えた歴史的資料や知識、施設を活用し、われわれが現在直面している様々な問題について考える場としての役割を担い、よりよいまちづくりを目指します。

5 学校教育をより豊かなものにします。

学校教育のカリキュラムに対応した展示やプラネタリウム投映を実施し、教科書では行うことのできない方法で子どもたちに歴史や自然科学を体験させ、教室での授業をより豊かなものとし、また、質の高い文化・芸術にふれることにより、豊かな人間性を備えた子どもが育成されるよう学校教育を支援します。

平成17年度、プラネタリウムは、夏の家族向け番組「ポケットモンスター 天空からの挑戦」が人気を博し、さらに、新たな番組として月ごとに誕生星座を取り上げる「12星座物語」を開始して、「大人向け」、「家族向け」、「学習投映」に加えて4番組編成とした効果か、開館以来最高の観覧者数を記録することができました。また、科学技術振興機構（JST）の地域科学館連携支援事業として新たに移動式プラネタリウムを導入し、中学校への出前授業を開始するなど、活気に満ちた1年となりました。展覧会についてもこの地域に関連したテーマを中心に、5本すべてを自主企画で行い、博物館全体として9万人を超える方々にご観覧いただきました。

また、博物館では、これまでの活動の評価と反省を行い、新たな行動目標として博物館の「使命」を設けました。社会教育施設としてより多くの市民の方にご利用いただき、本市の文化向上に寄与すべく、気持ちを新たに事業に取り組んでまいります。

なお、全編にわたり個人・団体の敬称は略させていただきました。



平成18年8月
四日市市立博物館

目 次

事業概要

1	博物館事業	
1	常設展示	3
2	企画・特別展示	3
3	教育普及事業	6
4	資料収集保存事業	9
5	調査研究事業	11
2	プラネタリウム事業	
1	天文展示	12
2	投映活動	12
3	教育普及活動	16
4	移動天文車運営事業	17

管理・運営

1	組織	18
2	予算	19
3	博物館協議会	20
4	施設の利用	20
5	年報の発行	21
6	利用状況	22
7	関係法規	24

	施設概要	28
--	------	----

	利用案内	31
--	------	----

事業概要

1 博物館事業

1 常設展示

基本テーマ「伊勢湾と鈴鹿山脈のある四日市の文化と生活環境」をもち、地質時代から現代までの四日市市及び北勢地域のあゆみを、「北勢地域のおいたちと自然環境」、「原始・古代の人びとの生活」、「四日市と四日市庭浦の成立」、「東海道と伊勢参宮道の賑わい」、「四日市港と近代産業の発展」、「戦災からの復興と都市の創造」の六つのテーマで構成し、その時代の特色を浮き立たせるよう工夫している。

コーナー展示では、戦前に東海地方有数の祭りであった「四日市祭」と、「浮世絵」に描かれた四日市の展示を行っている。



平成 17 年度常設展示

開館日数	296 日
観覧者数	24,171 人
観覧料	一般 210 円
	高・大学生 160 円
	小・中学生 100 円

2 企画・特別展示

本年度は五つの展覧会と、共催事業として「第 47 回北勢地区高等学校美術展」を開催し、幅広い年代層に訴えることができた。

(1) 特別展 1 「鈴鹿や富士を翔けた名車たち ～アイビーに、エレキに、サイケだったあの頃～」

[主 催] 四日市市立博物館、朝日新聞社、(財)岡田文化財団

[特別協力] 日産自動車(株)、(株)長谷工コミュニティ

会期：4月23日(土)～5月29日(日) 32日間

観覧者数：6,312人

観覧料：一般900円、高校大学生600円、小中学生100円

関連行事：英国クラシックカー・ミーティング5月15日(日) 市民公園

担当者所感(企画普及係 堀越光信)

1960年代という時代を、日本グランプリというレースとエントリ―した車を切り口として、当時の若者文化を中心にそれに関して、風俗・流行・ファッション・音楽等を展示した。当館では、これまでにない類の展覧会であったために苦労もした。特に著作権や肖像権等に関する権利の処理の問題に随分と阻まれることが多かった。今後、これらに関する手続きが音楽の場合のように、簡便で安価に処理出来、展示等に盛んに活用されることが望まれる。



(2) 企画展 1 「太古からの地響き ～マンモスが古いなかまをつれてやってきた～」

太古の時代に四日市や三重の地に生息していたゾウを取り上げ、三重県立博物館と共同企画した展覧会である。誰もが知るマンモスよりもはるかに古い時代にわが町にもゾウがいたことや、ゾウが生息できる自然環境であったことに理解を深めるもの。

[主催] 四日市市立博物館

[共催] 三重県立博物館

会期：6月25日(土)～9月4日(日) 62日間

観覧者数：9,212人

観覧料：一般500円、高校大学生300円、小中学生100円

関連行事

ゾウ全身骨格公開組み立て 6月18日(土)

化石探検隊！ - ミエゾウのふるさとをたずねて - 7月24日(日)

化石同定会 7月31日(日)

化石レプリカ教室 8月3日(水)・17日(水)

展示説明会 7月17日(日)・23日(土)・31日(日)・8月27日

(土)

担当者所感(企画普及係 中野千幸)

アンケート結果をみると、家族連れでの来館および市内県内からの来館者がおよそ8割を占めた。夏休みを家族で過ごす場としてこの展覧会を選んでいただいたことをとても嬉しく思う。

全身骨格標本やベビーバスほどの大きさのある足跡化石模型を展示することで、馴染みのうすいアケボノゾウやミエゾウに少しでも親しんでいただけるよう努めた。家族で楽しめるもの、自由研究のテーマになるもの、などの要素に魅力があると思われるので、今後の企画に反映させていきたい。



(3) 特別展2 「キャンパスに刻まれた魂～浅野弥衛の世界～」

[主催] 四日市市立博物館

[共催] 中日新聞社

[助成] (財)岡田文化財団

会期：9月17日(土)～10月23日(日) 32日間

観覧者数：2,561人

観覧料：一般600円、高校大学生300円、小中学生100円

関連行事

ワークショップ「ひっかいてアートしよう」 10月1日(土)

講演会「浅野弥衛を語る」 10月2日(日)

永見隆幸(著述家)、清水信、衣斐弘行、衣斐泰子

アトリエ公開「浅野弥衛のアトリエ特別公開」 10月8日(土)・

9日(日)

担当者所感(企画普及係 磯川浩)

来館者からは、博物館が地元作家の美術展を企画したことへの評価、浅野作品の質の高さ、展示空間の快適さを評価する声が多く、今後も地元作家を紹介する企画をしてほしいという要望も少なくなかった。展示室は全くディスプレイしなかったが、作品の持つ力強さがよい緊張感を醸し出してくれたと思われる。

また、会期中からではあるが、来館者に自由に感想を書いてもらう「感想ノート」を展示室内に置いた。子どもから大人まで感じたことを率直に書いてあるため、アンケート以上に来館者の思いが伝わるものとなった。来館者と結ぶものとして今後の展覧会においても、このような「感想ノート」の設置は有意義である。



(4) 特別展3 「伊勢の茶陶 萬古焼～古萬古・有節、そして四日市へ～」

[主催] 四日市市立博物館

[共催] (財)四日市市文化振興財団

[協力] 朝日町歴史博物館、桑名市博物館

[助成] (財)岡田文化財団



会期：11月3日(木・祝)～12月11日(日) 34日間
観覧者数：4,268人
観覧料：一般700円、高校大学生400円、小中学生100円
関連行事：ギャラリー・ツアー 会期中毎土曜日
担当者所感(企画普及係 岡村奉一郎)

地元、四日市の地場産業である萬古焼のルーツをたどる展覧会であった。通常見慣れた紫泥の急須や土鍋・蚊遣り豚などとは違って、色絵や赤絵、青釉や腥臙脂釉のものなど色鮮やかなものが多いということに来館者の多くの方が驚かされていたようであった。

また、同時期に桑名市博物館や朝日町歴史博物館、また、(財)四日市市文化振興財団やじばさん三重等とも連携して事業を進めたことも意義あることと考える。今後もこのような試みも視野に入れ事業を考えていきたいと思う。

(5) 特別展4 「聖武東遊～騎馬軍団東へ～」

[主催] 四日市市立博物館

[共催] 中日新聞社

[助成] (財)岡田文化財団

会期：12月23日(土)～3月5日(日) 56日間

観覧者数：4,587人

観覧料：一般500円、高校大学生300円、小中学生100円

関連行事

講演会

1月29日(日)「橘家と仏教 聖武東遊をめぐる文化史的背景」
(赤川)

講座終了後、ギャラリーツアー(赤川)

2月5日(日)「久留倍遺跡の謎に迫る」(奈良大学名誉教授水野
正好)

講座終了後、ギャラリーツアー(赤川)

講座&ギャラリーツアー

1月14日(土) 講座「倭国の危機管理」(赤川)

1月21日(土) 講座「仏教伝来2000年に向けて」(赤川)

2月11日(土) 講座「女帝復活」(赤川)

2月25日(土) 講座「ヤマト王権と古代の遺跡」(堀越)



担当者所感(企画普及係 赤川一博)

展覧会という一過性の催事での啓発には、限界があることから、展覧会解説書というかたちで、恒久的な意味合いをもつ出版物に力を入れ、展覧会終了後も、継続して啓発できるように配慮した。展覧会解説書は、よく売れ、一部の大学での教科書としてまとめた注文もあった。限られた印刷冊数であったが、展覧会終了後の残数も少なく、識者からの反応も良かった。

開館当初は、インターネットなどの同時メディアによって、かなり遠方からの来館があった。正月明けから自治会掲示など地元での広報をはじめ、市民の来館がめだつようになってきたが、県外からの来館が比較的多かったようである。

市民に解りやすいネーミングではなかったこと、久留倍遺跡の名がタイトルに入っていなかったことが、市民へのアピールに欠けたところと思われる。

(6) 共催展1 「第47回北勢地区高等学校美術展」

北勢地区の高等学校美術部の生徒が授業などで制作した作品を中心に展示した。

[主催] 三重県高等学校文化連盟、三重県教育委員会、四日市市立博物館

会期：平成18年3月14日(火)～3月19日(日) 6日間

観覧者数：265人

観覧料：無料

(7) 特別陳列

「17年度新収蔵品と新三重県指定有形文化財展」 3月21日(土)～4月16日(日) 17日間
新収蔵品

- ・松巒山水図(田能村竹田) ・燕子花図(菱田春草) ・秋色図(横山大観)
 - ・釈迦三尊十六善神像(大樹寺寄託) ・大般若経(三重県指定有形文化財：大樹寺寄託)等
- 新指定品

- ・萬古焼(林コレクション 53点) ・短刀 銘 藤正

(8) 学習支援展示

「大昔の四日市 - 弥生時代と古墳時代」 4月20日(水)～5月29日(日) 35日間

小学校6年生で学習する石器や土器・埴輪などを展示し、あわせてレプリカによる体験コーナーを設置して、日本史の学び初めを支援した。

「四日市が空襲にあったころ - 戦時下の暮らし」 6月18日(土)～9月30日(金) 90日間

平和学習の支援を目的に、四日市空襲による火災で熔けた貨幣やガラスなど空襲のようすや、衣料切符などの戦時中の暮らしのようすがわかる資料を展示した。

「四日市港の歴史」 10月18日(火)～11月27日(日) 36日間

郷土学習の支援を目的に、江戸時代の湊から近代港湾へのうつりかわりと、そこに関わった人びとについて展示した。

「むかしの暮らし」 12月17日(土)～平成18年3月5日(日) 61日間

小学校3年生で学習する台所を中心とした昔の暮らしのようすがわかる生活道具を展示し、実際に触ったり動かしたり体験しながら学習を支援した。

3 教育普及事業

地域の教育力である博物館の重要な機能として、展示・公開、調査・研究と並んで教育・普及がある。

当館では、市民の学習意欲の向上と知的欲求を満たすという任務を果たすため、従来から力を注いでいる。また、博物館が市民にとってより身近で親しめる場となるよう、さまざまな年齢層に応じた各種講座や講演会を開催している。なかでも、子どもを対象とした活動は未来への投資と考え、重点を置いている。子ども博物館教室では、展覧会の内容をより親しみやすいものとする体験活動と歴史的事象を追体験する活動とを中心におこなった。学校での団体見学では、体験用キットを整え、興味をもって展示の見学ができるような方法を工夫している。いずれも、館職員と学習支援ボランティアとが協働し、子どもたちへのきめ細かい働きかけを大切にしている。このほか、小中学校の総合的な学習の支援、中学生の職場体験、高校生のための博物館教室や大学生の博物館実習、学校利用を促進する目的から教員のための博物館教室を実施した。

(1) 博物館教室

子ども博物館教室

・ワークショップ(10:00～)

月 日	曜	テ ー マ	参加者
5月21日	土	未来の車をつくろう	8人
7月16日	土	博物館を探検しよう	28人
7月23日	土	化石博士になろう	27人
7月30日	土	化石博士になろう	15人
10月1日	土	ひっかいてアートしよう	42人
11月26日	土	陶器の絵付けをしよう	33人
平成18年 1月14日	土	むかしの道具を使ってみよう	25人



・むかし体験シリーズ 古代米づくりと土器づくり

月 日	曜	内 容	参加者
5月14日	土	古代米の田植えをしよう	延べ 210人
6月4日	土	土器をつくる	
7月2日	土	田の草取り	
8月6日	土	土器を焼く	
10月8日	土	石包丁で稲刈り	
11月5日	土	たて杵と臼で脱穀	
11月19日	土	土器でごはんを炊く	



・四日市空襲シリーズ

月 日	曜	活 動	参加者
6月18日	土	四日市空襲の話进行こう	27人
7月30日	土	四日市空襲の戦跡をたどろう	18人



親子創作絵本教室

10月22日(土)・23日(日) 参加者 親子5組10人
講師 中川たかこ(なかがわ創作絵本教室)

高校生のための博物館教室

・博物館ってどんなところ? - 職場体験 -
8月7日(日) 参加者5人

(2) 講演会(一般対象)

・ミュージアムセミナー

テーマ: 王朝の美

月 日	曜	演 題	講 師	参加者
4月16日	土	美しき仏~定朝と平等院~	当館学芸員 赤川 一博	41人
6月25日	土	王朝美の基本思想~主題と表現~	大手前大学教授 切畑 健	34人
8月20日	土	美しい住まい~寝殿造り~	近畿大学教授 櫻井 敏雄	53人
10月15日	土	絵巻物の見方とその世界	当館学芸員 赤川 一博	47人
11月 5日	土	『源氏物語』の文化史的背景	華頂短期大学教授 田中 嗣人	48人
12月17日	土	ヒロインの誕生~才女の環境~	同志社女子大学教授 臈谷 壽	40人
2月18日	土	みやびのタイムカプセル	前池坊短期大学学長、冷泉家第25代当主 冷泉 為人	43人

(3) 教員のための体験的博物館研修

教職員の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の教育力を学校教育にいかに関用できるかを考える機会として、実技・実習を主とする研修会を実施した。

8月22日(月) 参加者 29人

(4) 博物館実習

学芸員資格取得のために必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった実習生を受け入れた。主に実技や実習で博物館実務の概要に理解を深める機会とし、あわせて、博物館パートナーの裾野を広げる機会とした。

7月26日(火)～29日(金) 8月2日(火)～31日(水)

受入人数及び内訳 27人

三重大学 9人 皇學館大学 1人 名古屋芸術大学 5人 大東文化大学 1人
 同朋大学 1人 愛知学院大学 1人 名古屋女子大学 2人 京都府立大学 1人
 金城学院大学 1人 愛知淑徳大学 1人 愛知学泉大学 1人 京都女子大学 2人
 愛知教育大学 1人

7月26日(火)	9:00～	9:40～	10:30～	13:10～	15:00～
	館長挨拶 日程説明 自己紹介	日程説明 個別実習打ち合わせ	館内施設見学	博物館の教育普及事業について	課題説明 グループ編成
7月27日(水)	9:00～	10:30～	13:10～	16:20～	
	博物館資料の調査・収集・保存について	考古資料の取り扱いについて	美術工芸品・歴史資料の取り扱い	課題準備	
7月28日(木)	9:10～	10:10～	13:10～	16:00～	
	博物館におけるレプリカの意義	化石レプリカ作成実習	「私が作ったレプリカ展」展示作業	課題準備	
7月29日(金)	9:00～	10:30～	13:10～	16:45～	
	展覧会ガイド	課題発表準備	課題発表	閉会行事	
個別実習	展覧会の会場系 聞き取りアンケート、資料整理 等(8月31日まで)				
課題	4～5人ずつの小グループで、博物館種のある部分をテーマに取り上げ、レポートを作成し、発表する。				

(5) 博物館ボランティア(登録者80人)

展覧会ごとに事前研修を実施し、さらにボランティア各自の自主学習の成果をもとに、来館者への解説サービス活動を行った。

展覧会名	開催日数	活動延べ人数
鈴鹿や富士を翔けた名車たち	32	264
太古からの地響き	62	356
キャンパスに刻まれた魂 - 浅野弥衛の世界 -	32	234
伊勢の茶陶 萬古焼	34	240
聖武東遊	56	294
合計	216	1388

(6) 学習支援ボランティア(登録者11人)

学校団体が学習支援展示の見学をする時や子ども博物館教室での子どもたちの活動をサポートし、きめ細かい学習の支援を行った。

- ・学習支援展示見学対応 活動延べ人数：51人
- ・子ども博物館教室活動対応 活動延べ人数：58人

(7) 古文書ボランティア(登録者33人)

昨年度に引き続き、「清水本陣文書」の翻刻作業を進めた。2チームに分けて月2回ずつ、当館にて活動し、その成果の一部を研究紀要に掲載した。

(8) 入館者調査

今後の博物館のあり方や、企画、運営等に資するため、各企画展・特別展ごとに「入館者アンケート」を実施し、入館者の情報分析を実施。市民、利用者側のニーズの把握に努めた。

(9) 講師等派遣活動

地区市民センター等館外で行われる講演会等への講師派遣を実施している。こうした派遣活動は、博物館の担うべき教育普及機能と市民の学習意欲のパイプ役として、また、博物館に親んでもらうため

の活動として積極的に対応している。

(10) 広報活動

企画展・特別展をはじめとする各事業の広報は、市広報の活用はもちろん、タウン誌・各報道機関への情報提供（記者発表・資料提供等）、生涯学習・学校教育機関、地区市民センターその他公共施設及び商業施設へのポスター・チラシの配布・掲示を中心に行った。また、テレビ等への視聴者サービスを行うなど、多角的に取り組んだ。ホームページについては、タイムリーでわかりやすい情報提供を目指した。

(11) 関連出版物

図録

- 「鈴鹿や富士を翔けた名車たち～アイビーに、エレキに、サイケだったあの頃～」 A4 24頁 1500部 500円
- 「キャンパスに刻まれた魂～浅野弥衛の世界～」 A4 120頁 800部 1200円
- 「|伊勢の茶陶|萬古焼～古萬古・有節、そして四日市へ～」 A4 140頁 2000部 1500円
- 「聖武東遊～騎馬軍団東へ～」 A4 160頁 1500部 1500円

絵葉書 2400枚（8種*300枚）

紀要

研究紀要第13号 A4 120頁 500部 販売価格800円

4 資料収集保存事業

博物館の諸活動のなかで、最も基本となる活動として、各資料の購入及び収集の充実を図り、その保存に努めた。なお、資料収集上の専門事項について、資料委員会の審議・指導・助言を得た。

[四日市市立博物館資料委員会委員] (順不同) 平成18年3月末現在

	氏名	分野	
委員長	上野 秀治	歴史	皇學館大学教授
	山澤 義貴	考古	日本考古学協会会員
副委員長	毛利 伊知郎	絵画	三重県立美術館学芸普及グループ主幹
	山口 素弘	絵画	三重大学教授
	井上 喜久男	工芸	愛知県陶磁資料館主任学芸員
	茅原 弘	産業史	日本産業技術史学会会員
	市橋 甫	自然	日本昆虫学会会員
	印南 敏秀	民俗	愛知大学教授

(1) 資料委員会 平成18年3月16日(木) 議題：購入予定資料の審議

(2) 収蔵庫燻蒸 12月25日(日)～12月27日(火) <この間、臨時休館>

(3) 資料の状況 平成18年3月末現在

1 人文 科学 資料	区分	実物	標本	模写模型
	(1)古美術	1,066	4	10
(2)近代美術	454	0	0	
(3)考古学	960	6	20	
(4)民俗	4,000	0	10	
(5)民族・人類学	0	0	0	
(6)歴史	5,874	0	37	
(7)その他	74	4	9	
	計	12428	14	86
	図書	写真		その他
	7,121	67		110

2 自然 科学 資料	区分	実物標本	模写模型
	(1)動物資料	0	0
(2)植物資料	3,272	0	
(3)地学資料	93	2	
(4)理工学資料	0	0	
(5)天文資料	7	0	
(6)その他	0	1	
	計	3,372	3
	図書	写真	その他
	473	59	10

(4)新収蔵資料

購入資料

資料名・作者等	分類	購入年月日
時局紙芝居「二人の警防員」	歴史	平成 17/07/17
名古屋駅前村瀬運送店引札(東海道線・関西線・中央線・名古屋駅発車時刻表)	歴史	平成 17/07/30
各国地名汽船号	歴史	平成 17/07/30
丹羽文雄書簡・葉書 浅見淵(評論家・小説家)に宛てた丹羽文雄の書簡(6通)・葉書類(3通)で、昭和11年12月~昭和16年3月	歴史	平成 17/10/18
丹羽文雄文学全集 限定版 全28冊	歴史	平成 17/11/01
色絵草花文招き猫置物・色絵桜文酒徳利(一对)・鶴絵浮出文急須・色絵花鳥文五角急須・白土宝瓶・色絵布袋形置物・色絵浮出花鶴図掛花生・色絵山水図花生・色絵花鳥図手付水注・青釉花陰刻文仙蓋瓶・緑釉鳳凰陰刻文鉢・青釉鶴形香合・青釉猪口	美術工芸	平成 18/03/29
朝鮮写獅子井戸覗蓋置	美術工芸	平成 18/03/29
腥臙脂釉鳳凰文蓋物	美術工芸	平成 18/03/29

寄贈資料

資料名・作者等	分類	寄贈年月日
田村泰次郎選集(1~5巻)	歴史	平成 17/05/12
角川文庫『肉体の門』・『文庫で読めない昭和名作 短篇小説 1946~1980』・「春婦伝」映画ポスター	歴史	平成 17/05/19
高下駄・日章旗 寄書・千人針	歴史	平成 17/07/17
木製 手廻し轆轤	美術工芸	平成 17/07/28
角川文庫『肉体の門』・新潮社『肉体の門・肉体の悪魔』・『文壇栄華物語 中間小説とその時代』・『小説新潮』第二巻第十二号・『オール讀物』昭和二十三年一月・七月・十月号・『作品展望』昭和文学上・下・『IDティック・ミステリー 10月号』・「春婦伝」「肉体の門」DVD・「観光荘結婚式御披露宴御案内パンフレット」・「アサグラー」昭和十四年十二月十三日号・「女体」「肉体の門」映画ポスター(四枚)	歴史	平成 17/09/21
書・画・書簡・色紙・短冊等	美術工芸	平成 17/09/21
志野写香合・色絵雨龍文鉢・伊良保写型急須・色絵狸形香合・手捻草花陰刻文方品・色絵桜花文茶巾形蓋物・色絵お多福文菓子鉢・菊花文輪花鉢	美術工芸	平成 17/10/13
郷土日永(昭和34年2月刊)泉水山・下ノ原遺跡	歴史	平成 17/10/18
ミルカカラ セミオート	民俗	平成 17/11/01
小説新潮(昭和23年3月1日号)・新聞切り抜き(昭和43年7月2日~昭和43年7月20日)・太陽(1979年10月号 No.198)	歴史	平成 17/11/15
カラテレビ(ビクター ヴィッドステート 型C-9020(G) 76製1~6月)	民俗	平成 17/11/17
二眼式カラ	民俗	平成 17/11/26
おひつ(3)・せいろ・火のし・台付十能・和裁裁ち台	民俗	平成 17/12/09
手捻銀彩湯沸・色絵片口鉢・古萬古写煎茶碗・色絵香炉・手捻菊絵湯沸・色絵手捻松文茶器・手捻獅子摘方品・手捻銚子・色絵古萬古煎茶器・白釉茶碗・色絵紅葉文茶入・赤絵花生・喫煙具・色絵唐草文菓子鉢・吹上香合・青磁香炉・青釉駟鈴形香炉・色絵花文輪花鉢・銀彩手捻花瓶・高田漆煙草盆・染付虫文茶碗・銀彩栗赤絵手捻酒壺・乾山写緑釉白梅文鉢	美術工芸	平成 18/01/22
ジャッキ(帯を仕上げる押し機)・ミノ(電動)フザ-製	民俗	平成 18/01/24

ミシ(シガ-製)	民俗	平成 18/02/02
ミシ(リッカ製、足踏を電動に改良) 昭和 40 年代	民俗	平成 18/02/02
春秋花鳥図屏風・四日市萬古菓子器・桑名萬古菓子器・瀬戸茶碗揃	美術工芸	平成 18/03/12
駕籠	民俗	平成 18/03/26

寄託資料

資料名・作者等	分類	寄託年月日
色絵桜文盃・手捻り茶碗(五客)・色絵鶴文皿(五客)	美術工芸	平成 17/04/14
墨蹟・掛軸・文書等	美術工芸・歴史	平成 17/12/20

5 調査研究事業

学芸員の博物館専門職員としての資質を高め、専門分野の学術的研究をはじめさまざまな豊富な知識を享受し、特別展示の開催等、多くの事業に資するため、各種情報の収集に努めつつ、調査研究活動を行っている。今後も常設展示・特別展示等の充実、教育普及事業の活発化、各専門分野における自己研鑽に努めつつ、他の博物館や公共機関等の調査研究活動への協力、資料収集、展示等への技術的指導と助言・援助、また、いろいろな施設で開催される各種の講演会等への講師派遣などで成果の還元を図る。

そのため、館及び分野ごとの共通テーマに基づいた年度ごとの課題調査、学芸員個別の研究テーマによる調査、特別展・企画展に向けた事前の調査を柱として、博物館の諸活動を支える基礎的活動として活発に展開していきたいと考える。

課題調査「市内所在資料・コレクション等調査」

次年度以降特別展企画展調査

- 「丹羽文雄展調査」
- 「昆虫展調査」
- 「浮世絵展調査」
- 「シルクロード展調査」
- 「田村泰次郎調査」
- 「館通因調査」
- 「県内仏教美術調査」

教育普及事業(ワークショップ・学習支援展示)調査

研究紀要 13 号の発行

内容

聖武東遊の謎を巡って	赤川一博
研究ノート 東大寺俊乘上人像についての覚書	赤川一博
大樹寺(市内市場町)の新規寄託資料	堀越光信
萬古焼の文様について	岡村奉一郎
刀剣展示の諸問題	赤川一博
資料紹介 長明寺文書翻刻(二)	同志社大学町触研究会・
	田中伸一
仏像調査報告書	赤川一博
四日市宿 清水本陣文書(八)	四博古文書会
明治陶磁器コレクションのなかの萬古焼	岡村奉一郎
企画展における地域・近隣館との協働について	岡村奉一郎
展覧会から	
企画展「いま甦る武人の心 日本の刀」	赤川一博
企画展「鈴鹿や富士を翔けた名車たち	
～アイビーに、エレキに、サイケだったあの頃～	堀越光信
企画展「太古からの地響き	
～マンモスが古いなかまをつれてやってきた!～」	中野千幸

企画展「キャンパスに刻まれた魂 - 浅野弥衛の世界」
 企画展「|伊勢の茶陶|萬古焼
 ~古萬古・有節、そして四日市へ~」

磯川 浩

岡村奉一郎

2 プラネタリウム事業

1 天文展示

テーマ「宇宙観 5000 年の歴史」 天体写真、隕石等の展示

映像コーナー「パソコンで楽しむ星空ガイド」「映像で楽しむ天文学」

季節番組に合わせて火星探査機で使われたエアバッグ素材などの展示や「黄道 12 星座絵」「望遠鏡の使い方ガイド」なども展示した。

2 投映活動

季節番組を二種類（家族向けと一般向け）に分けての投映方式を継続・充実させた。一般向け番組は自主企画で制作し、50 分間のフルライブ解説とした。家族向け番組は、子どもたちに人気のあるキャラクターが登場する作品を採用した。また、市民のニーズにあわせて星空をゆっくりと楽しむ星座神話番組「12 星座物語」を新設した。星占いの星座を一つずつ月替わりで紹介し、星座神話などをライブ解説した。そのほか、聴覚障害者にも配慮した字幕付き投映、園児や児童を対象とした学習投映なども実施した。

投映時間と番組

5月まで	10:30~	13:20~	14:40~	16:00~
平日	(学校園団体利用)	一般向け番組	一般向け番組	
土・日曜日・祝日・ 学校園長期休暇期間	家族向け番組	家族向け番組	家族向け番組	一般向け番組

6月から	10:30~	13:20~	14:40~	16:00~
平日	(学校園団体利用)	一般向け番組	星座神話番組	
土曜日 学校園長期休暇期間	家族向け番組	家族向け番組	一般向け番組	星座神話番組
日曜日・祝日 学校園長期休暇期間	家族向け番組	家族向け番組	一般向け番組	家族向け番組

(1) 季節番組 (料金：一般 530 円 高・大生 370 円 小・中生 200 円)

	番組名 / 投映期間	投映回数	入場者	
春番組	一般向け番組「2005 年土星への旅」			
	2月5日(土)~5月29日(日)	88日間	1,190人	
	平成17年度分	45日間	713人	
	家族向け番組「さんびきのこぶた ながれぼしをみた」			
夏番組	2月5日(土)~5月29日(日)	45日間	3,262人	
	平成17年度分	24日間	1,671人	
	一般向け番組「クイズで挑戦! アインシュタイン&ブラックホール」			
	6月4日(土)~9月25日(日)	88日間	85回	2,396人
秋冬番組	家族向け番組「ポケットモンスター~天空からの挑戦~」			
	6月4日(土)~9月25日(日)	64日間	143回	15,297人
	一般向け番組「火星サスペンス~探査機は見た!~」			
	10月1日(土)~平成18年1月29日(日)	89日間	87回	2,070人
家族向け番組「おたすけじぞう」				
	10月1日(土)~平成18年1月29日(日)	41日間	104回	2,935人

春番組	一般向け番組「俳句と星 - 山口誓子が見た星空 - 」			
	平成 18 年 2 月 4 日(土)～ 5 月 28 日(日)	90 日間	88 回	991 人
	平成 17 年度分	45 日間	44 回	460 人
	家族向け番組「おじゃる丸 いん石小僧がふってきた！」			
星座神話番組	平成 17 年 2 月 4 日(土)～ 5 月 28 日(日)	44 日間	113 回	4,051 人
	平成 17 年度分	21 日間	53 回	2,326 人
	6 月「てんびん座」7 月「さそり座」8 月「いて座」9 月「やぎ座」10 月「みずがめ座」11 月「うお座」12 月「おひつじ座」		149 回	1,521 人
	1 月「おうし座」2 月「ふたご座」3 月「かに座」	159 日間		

上記のほか、試写会に 182 人(3 回実施)また、各番組について 1 回ずつ字幕付投映を実施した(星座神話番組を除く)。

赤外線補聴装置を常設。

春番組 「2005 年土星への旅」

7 年間の宇宙飛行を乗り越え土星に到着した「土星探査機カッシーニ」の旅を、天文シミュレーションソフト「ステラプロジェクト」を活用して振り返った。生解説の特徴を生かし、土星の衛星タイタンの調査など、NASA から届く最新情報を盛り込むことで話題性のある番組となった。

(天文係 加藤正之)



春番組 「さんびきのこぶた

ながればしをみた」

イギリス童話「三匹の子ぶた」をアレン

ジした作品で、幼児層から一般層まで幅広い世代が楽しむことができる内容であった。夜空に輝く星座や流れ星を通して「友達をつくる」という心温まるストーリーも好評であった。(天文係 加藤正之)

夏番組 「クイズで挑戦！アインシュタイン＆ブラックホール」

うちわと蓄光シートを利用した解答札を作り、本格的なクイズ形式とした初の観客参加型番組で、観覧者から大変ご好評をいただいた。この年は相対性理論が発表されてから 100 年にあたる「世界物理年」であったため、当館でも科学の面白さを伝えたいと、この話題に取り組んだ。大変難しい内容であったが、相対性理論と関わりの深いブラックホールについてもあわせて取り上げたこと、クイズ形式にしたことによって気軽に挑戦してもらえたようだ。

NHK 教育テレビの番組「平成若者仕事図鑑 あしたをつかめ！」で当プラネタリウムやこの番組を 25 分にわたって特集されたこともあり、自主制作番組としては過去最高の観覧者数(回平均)となった。この番組を通して、難しい話題でも、取り上げ方を工夫することによって、どんな客層にも十分受け入れられるということが分かった。(天文係 須藤悠愛)



夏番組 「ポケットモンスター アドバンスジェネレーション 天空からの挑戦」

小学生を中心に絶大な人気を誇るキャラクターを起用した番組。夏休みを含む放映期間だったこともあり、開館以来最高の記録的な観覧者数となった。キャラクターとともに宇宙や天体に関するクイズを解き進める形式のストーリー展開が、観客を飽きさせず好評だった。期間中何度も見に来るというリピーターの姿もあり、印象的な番組であった。(天文係 須藤悠愛)

秋冬番組 「火星サスペンス ～探査機は見た！～」

火星探査機を擬人化して親しみを持たせ、エンディングでは「探査機の待つ火星へ行ける未来が来る」という夢のある終わり方にするなど、ストーリー性のある番組とした。また、動画と音楽、星空がマッチしており、満足度が9割を超える、人気を博した番組であった。しかし、科学的な内容は簡略化していったため、情報量として物足りないとの意見も見られた。癒しを求めてくる方、科学的な内容を求める方など、観覧者のニーズは多様である。番組ごとにそれぞれのニーズに応えられるようにしていきたい。
(天文係 倉城美奈)



秋冬番組 「おたすけじぞう」

日本に伝わる星の昔話をテーマにした番組。心温まる内容で、小さい子や親御さんから高い評価をいただいた。今後ともこういった昔話の番組をしてほしい、という意見もみられた。番組を見た事で、星への興味・関心を持ったという意見が多く、子ども達への「天文」という分野への第一歩として、今後とも星にまつわる温かい物語は欠かせないと感じた。(天文係 倉城美奈)

星座神話番組 「12星座物語」

星占いの星座を、月替わりで詳しく解説する番組。アンケートで要望の多い、星空をじっくりと見る番組とすることで市民の多様なニーズに応えるために、星座神話番組の時間帯を新しく6月から設けた。星占いの星座という一般の人にもポピュラーな星座の夜空での探し方や、その星座にまつわる神話の紹介、さらには、観覧者の中から1名限定で誕生日の星空を再現する体験コーナーなどで構成した。毎月来館しているという観覧者アンケートもみられた。(天文係 稲垣好孝)

(2) 団体利用 (保育園、幼稚園、小・中学校、高校等の団体)

放映：平日 10:00～、 11:00～

季節の星座を中心に年齢・学年に応じた、生解説による双方向型の学習用プラネタリウム放映
放映回数 139回、入場者数 210団体、11,069人

月 日	テ ー マ	校 園	入 場 者
4月1日 ～5月31日	保 幼 星座動物園へようこそ	2 園	157 人
	小 学 北斗七星を探せ!	9 校	155 人
	中 学 惑星を探そう!	2 校	13 人
	その他 惑星を探そう!	0 校	0 人

6月8日 ～7月16日	保 幼 小 学 中 学 その他	七夕物語 夏の大三角と星の色 夏の大三角と星の色 夏の大三角と星の色	76 園 10 校 2 校 1 校	3,219 人 734 人 10 人 12 人
9月1日 ～10月14日	保 幼 小 学 中 学 その他	お月様のお話 月を見よう 天の川は銀河系!! 天の川は銀河系!!	5 園 17 校 1 校 0 校	146 人 1,433 人 9 人 0 人
10月18日 ～12月19日	保 幼 小 学 中 学 その他	絵本のプラネタリウム 流れ星のヒミツ 北極星と星の動き 北極星と星の動き	14 園 29 校 0 校 3 校	560 人 2,445 人 0 人 72 人
平成 18 年 1月13日 ～3月24日	保 幼 小 学 中 学 その他	うたのプラネタリウム 冬の大三角と土星 冬の大三角と土星 冬の大三角と土星	13 園 20 校 0 校 6 校	548 人 1,483 人 0 人 73 人

(3) 特別番組

「宇宙塾～天文^{がく}楽しませんか?～」(全4回)
土曜日 18:30～20:00 料金:800円



市民が天文・科学をより詳しく学習する機会として、「宇宙塾」を年4回実施した。天文学最前線で活躍中のゲストを迎えて、最新の話や実験質問コーナーをおりませた、プラネタリウム特別版。

月 日	テ ー マ / ゲ ス ト	入 場 者
第 21 回 5月28日	はやぶさが行く!～小惑星探査機が挑む太陽系誕生の謎～ 矢野 創(宇宙航空研究開発機構助手)	60 人
第 22 回 6月18日	宇宙 137 億年の旅～すべてはひとつぶの光から～ 佐治 晴夫(鈴鹿国際大学短期大学部学長)	113 人
第 23 回 10月22日	スノーボール・アース 川上 紳一(岐阜大学教育学部教授)	66 人
第 24 回 11月19日	オーロラと宇宙の嵐 関 華奈子(名古屋大学太陽地球環境研究所助教授)	140 人

「宇宙塾実践編 デジカメ天体写真講座」(3回シリーズ)

16:30～18:00

講師:浅田英夫(天文研究家)

宇宙塾実践編として天体写真撮影の専門家を招き、天体写真講座を開設した。

第 1 回	9月24日(土)	入門編	42 人
第 2 回	11月5日(土)	実技編	29 人
第 3 回	1月7日(土)	応用編	23 人



生演奏コンサート

金曜日(7月のみ木曜日)18:30～20:00 料金:1,200円(前売制)

月 日	テ ー マ / 出 演 者	入 場 者
7月7日	七夕コンサート/四日市リコーダーアンサンブル	146 人
10月28日	秋の夜長コンサート/ア・ピアチェーレ弦楽四重奏団	83 人
12月23日	クリスマスコンサート/三輪雅美(チェンバロ)	144 人
平成 18 年 3月10日	早春コンサート/大関美希&マリパトリオジュティム	144 人

CDコンサート

金曜日 19:00～20:00 料金:600円(前売制)

月 日	テ ー マ	入場者
5月6日	春の星空と「母の日に寄せて・タンゴ特集」	103人
8月6日	夏の星空と「槇原敬之特集」	153人
11月11日	秋の星空と「氷川きよし特集～きよしとこの夜空の星々～」	96人
平成18年2月10日	冬の星空と「サラ・ブライトマン特集」	101人

3 教育普及活動

(1) 子ども天文教室 (講師:天文係職員)

	プラネタリウム見学と きらら号観望	天文工作	参加者
夏シリーズ	7月16日(土)	8月20日(土)	22組81人
		8月21日(日)	
冬シリーズ	12月10日(土)	平成18年1月21日 (土)	15組43人



(2) ロボット工作教室 (講師:伊藤久隆、四日市中央工業高等学校教諭)

参加者:18人(中学生)

第1回目 11月20日(日):虫型ロボット製作

第2回目 12月24日(土):参加希望者による発表会

(3) 星空観望会

「親子星空教室～望遠鏡の使い方」

8月12日(金)19:00～20:30 星の広場 (参加者:18組)

「夏の大三角と天の川観望会」

8月28日(日)19:00～21:00 星の広場 (参加者:130人)



(4) 天体写真展

デジカメ天体写真講座の受講者を主な対象に天体写真展を実施した。

平成18年3月4日(土)～26日(日) 1階エントランスホール(26点)

(5) プラネタリウム指導者研修会

教育センター、理科教育研究協議会との共催で教員と市民を対象

8月8日(月)14:00～16:00 講師 天文係 (参加者:102人)

8月22日(月)14:00～16:00 講師 名古屋大学大学院教授 福井康雄(参加者:153人)

12月7日(水)16:00～17:30 講師 天文係 (参加者:57人)

(6) スペースキャンプ

少年自然の家との共催で小中学生を対象にした天文教室

12月3日(土)～4日(日) 博物館と少年自然の家 (参加者:84人)

(7) 科学技術振興機構(JST)による地域科学館連携支援事業

移動式プラネタリウムを用いた出前授業を三泗地区内中学校で実施した。また、三泗中学校理科教員によるスキルアップ研修も行った。

月 日	実施校	対 象	参加者
12月6日(火)	橋北中学校	中3	38人(1クラス)

12月13日(火)	大池中学校	中3	200人(5クラス)
12月20日(火)	富田中学校	中3	108人(3クラス)
1月19日(木)	菰野中学校	教員	18人(中学理科教員)
1月27日(金)	西朝明中学校	中3	120人(4クラス)
2月10日(金)	楠中学校	中3	116人(3クラス)

4 移動天文車運営事業

(1) 自主事業

口径20cmの天体望遠鏡をのせた移動天文車「きらら号」による星空観望会を、天文ボランティアの協力を得て実施した。対象は子どもから大人まで。

月日	時間	観望会名	場所	参加者
4月16日(土)	19:00~20:30	土星観望会	市民公園	100人
5月5日(木)	9:30~13:30	太陽観望会	四日市ドーム	582人
5月14日(土)	19:00~20:30	土星観望会	市民公園	100人
10月29日(土)	19:00~20:30	火星観望会	三滝公園	50人
11月10日(木)	18:30~20:00	火星観望会	垂坂公園 羽津山緑地	70人
12月8日(木)	18:30~20:00	月と金星観望会	県営北勢 中央公園	50人

(2) 派遣事業

要請により市内各地へ出動し、天文ボランティアの協力を得て観望会を行った。また、市内だけでなく三重郡3町及び鈴鹿市からの派遣要請にも応じた。天文ボランティア(52人)の協力を得て観望会を実施。

稼働予定件数 46件、派遣回数 37回

参加者数 4,013人(天候不順時の天文教室参加者含む)

ボランティア数 延べ103人



(3) 天文ボランティア

天文ボランティア養成講座

移動天文車を利用した天体観望会をはじめ、各種天文普及事業に協力をしていただく天文ボランティアの養成講座を実施した。

講師 杉野友司(天文ボランティア代表)、天文係 参加者数 14名

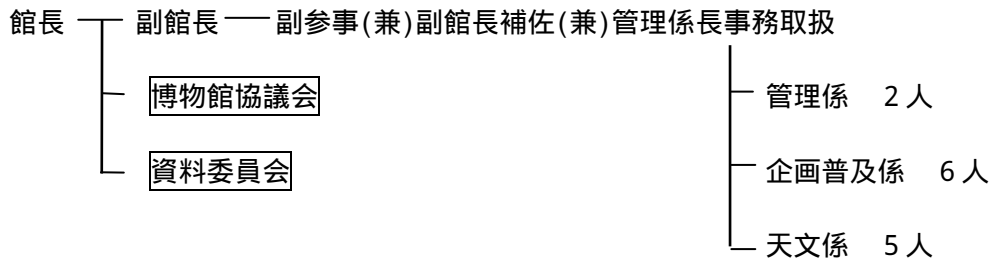
10月9日(日) 13:30~18:40

10月30日(日) 13:30~17:30

1 組織

(1) 職員構成

(平成18年3月末現在)



(2) 事務分掌

[管理係]

- (1) 博物館事業の調整及び運営に関する事。
- (2) 調査、統計及び報告に関する事。
- (3) 博物館協議会に関する事。
- (4) 施設の維持管理及び館内の秩序維持に関する事。
- (5) 施設の使用許可に関する事。
- (6) 観覧券の発売及び入館者の受付、案内等に関する事。
- (7) 館の庶務に関する事。

[企画普及係]

- (1) 特別展示の企画及び開催に関する事。
- (2) 常設展示及び特別展示の利用者への説明、指導等に関する事。
- (3) 博物館資料の収集、保管、展示、貸出及び利用に関する事。
- (4) 博物館資料の調査研究及び報告書の刊行頒布等に関する事。
- (5) 講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。
- (6) 博物館資料の購入、受贈及び受託に関する事。
- (7) 博物館の広報に関する事。

[天文係]

- (1) プラネタリウムの映写及び天体観測に関する事。
- (2) 天文知識の普及及び啓発に関する事。
- (3) 天文資料の収集、保管、展示及び調査研究に関する事。
- (4) 移動天文車に関する事。

2 予算
平成17年度
[歳入]

(単位：千円)

科目			当初予算額
使用料及び手数料 使用料 教育使用料 社会教育使用料	博物館使用料	博物館観覧料 プラネタリウム観覧料 講座室使用料	16,092 7,486 610
財産収入 財産売払収入 物品売払収入 物品売払収入	市史等売払収入		3,600
諸収入 雑入 雑入 実費弁償金 雑入	職員宿舍等使用料 駐車場使用料 教育費雑入 各種講座受講料	博物館委託販売手数料 博物館事業費助成金	192 1,800 2,000 4,300 175
計			36,255

[歳出]

(単位：千円)

科目	当初予算額	管理運営	調査研究	展示開催	資料収集	教育普及	方外利用 運営	天文事業
報酬	301	301						
賃金	8,333	3,131		1,301	3,901			
報償費	2,239		224	559	79	385	992	
旅費	2,295	177	580	1,047	115	123	253	
需用費	51,047	29,726	750	10,280	1,120	455	4,516	4,200
役務費	6,641	1,604		4,500		402	135	
委託料	129,285	73,545		32,091	3,350	300	18,665	1,334
使用料及び賃借料	6,484	4,783			981		720	
工事請負費	875	875						
備品購入費	7,620	3,320	100		4,000			200
負担金補助及び交付金	10,164	84	39	9,975		45		21
計	225,284	117,546	1,693	59,753	13,546	1,710	25,281	5,755

3 博物館協議会

四日市市立博物館協議会は、博物館の運営に関して館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、博物館法及び四日市市立博物館条例の規定に基づき設置されるもので、平成5年6月1日付けで委員17人（定数20人）を委嘱（任期2年）して発足した。平成17年度委員は下表のとおりである。なお、平成17年度協議会は2回開催された。

第1回協議会 8月23日(火) 13:30～

議題： 平成17年度事業実施状況について
「使命」の明確化について

第2回協議会 平成18年2月22日(水) 13:30～

議題： 平成17年度下半期事業実施状況について
平成18年度事業計画案について
指定管理者制度について

[四日市市立博物館協議会委員]

平成18年3月末現在

	氏 名	職 名
学校教育関係	樋口 大良	四日市市小学校長会代表
	大鷹 正文	四日市市中学校長会代表
	太田 和子	四日市市公立幼稚園長会代表
	中村 秀文	三重県北勢地区高等学校代表
	小出 正章	私立学校代表
社会教育関係	服部 武一	四日市市自治会連合会代表
	林 昌信	四日市市立博物館ボランティアの会代表（解説）
	川村 緑	四日市市立博物館ボランティアの会代表（解説）
	伊藤 正昭	四日市市立博物館ボランティアの会代表（古文書）
	杉野 友司	四日市市立博物館ボランティアの会代表（天文）
学識経験者	石田 昇三	四日市市文化財保護審議会代表
	松屋 文子	四日市市文化振興財団代表
	伊達 則彦	四日市商工会議所代表
	山田 正博	四日市萬古陶芸協会代表
	播磨 良紀	四日市大学環境情報学部教授
	松井 真理子	四日市大学総合政策学部助教授
	豊田 元子	三重日仏協会理事
	藤原 寛	三重県立博物館長
	浅田 英夫	天文研究家
	岡田 和彦	市政記者クラブ代表

4 施設の利用

当館の施設の利用については、四日市市立博物館条例第5条により、特別展示室及び講座室を博物館の設置目的に反しない、博物館事業に支障のない範囲において、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものについて利用を許可している。また、1階エントランスホールについても、支障のない限り開放する方向で対応した。平成17年度実績は、以下のとおりである。

[特別展示室]

・墨友会書作展

6月9日(木)～6月12日(日) 墨友会

・和紙ちぎり絵展

平成18年3月23日(木)～3月26日(日) 四日市和紙ちぎり絵サークル

[講座室]

・歴史ゼミナール四日市講座 歴史ゼミナール四日市

5月28日、7月23日、9月24日、11月26日、平成18年1月28日、3月25日各土曜日

- ・壬申の乱および聖武天皇 北伊勢巡幸の道を往く 講演会
5月29日(日) 近畿文化会
- ・おかげ参り300年祭記念事業 公開リレー講演会
7月9日(土) おかげまいり300年祭実行委員会
- ・四日市人権・同和教育研究大会分科会
8月21日(日) 四日市市教育委員会人権・同和教育課
- ・MOA美術館四日市児童作品展
10月28日(金)~10月30日(日) MOA美術館四日市児童作品展実行委員会
- ・絵本の読み聞かせ会
11月23日(水) 四日市市教育委員会社会教育課
- ・大人のための絵本講座
11月27日(日) 四日市市教育委員会社会教育課
- ・防災フェア・木造住宅耐震化無料相談会
平成18年1月4日(水)~1月7日(土) 四日市市総務部防災対策課
- ・聖武東遊展を見る
平成18年2月19日(日) 歴史を訪ねる会
- ・地域女性団体会員研修会
平成18年3月17日(金) 四日市市教育委員会社会教育課
- ・34530環境イベント~ゴミ問題、NPOでキックオフ~
平成18年3月21日(火) 四日市生活創造圏ビジョン推進協働会議

[市民ギャラリー]

- ・スケッチ原画展
8月18日(木)~21日(日) 個人
- ・ミニチュアモデルの世界展
平成18年1月4日(水)~3月5日(日) 個人
- ・陶彩会作品展
平成18年3月28日(火)~4月2日(日) 陶彩会

[エントランスホール]

- ・第10回発掘展
7月20日(水)~8月28日(日) 四日市市役所社会教育課
- ・絵手紙三人展
8月10日(水)~8月17日(水) 絵手紙グループ風里
- ・SNOOPYグランドアート・2006
12月22日(木)~12月25日(日) SNOOPYグランドアート・2006実行委員会
- ・版画年賀状展
平成18年1月7日(土)~1月15日(土) 木版友の会
- ・写真展「子ども達に輝きを -クマリプロジェクト」
平成18年3月17日(金)~4月2日(日) クマリプロジェクト

5 年報の発行 第12号 A4 35頁 インターネットホームページで公開

6 利用状況(4月1日~平成18年3月31日)

(1) 常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者												無料観覧者								観覧者合計			
		個人			団体(2割引)			減免(5割引)			減免(5割引)の団体			有料入館者計	小中		園児		他団体		幼児		招待券	引率者	無料入館者計
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中		校	人数	園	人数	数	人数					
4	25	445	59	96	21	0	6	20	1	2	0	0	0	652	0	0	0	0	1	33	57	117	0	207	859
5	26	1,783	67	350	204	1	24	68	3	1	0	0	0	2,501	5	295	0	0	1	21	213	570	0	1,099	3,600
6	26	359	6	164	113	0	18	8	0	1	1	0	1	671	2	14	27	1,100	0	0	90	201	0	1,405	2,076
7	27	644	39	327	138	0	223	30	2	3	0	0	0	1,406	4	295	8	288	2	30	281	188	6	1,088	2,494
8	26	799	104	594	250	55	219	32	1	12	8	0	0	2,074	0	0	0	0	0	0	312	1,221	0	1,533	3,607
9	17	233	43	80	29	3	15	7	0	1	5	1	4	421	2	25	0	0	1	12	56	173	1	267	688
10	26	322	24	79	30	5	289	17	0	108	0	0	0	874	4	360	3	112	2	73	39	265	21	870	1,744
11	26	355	15	34	170	1	44	16	0	1	0	0	0	636	14	1,378	7	290	1	39	85	503	3	2,298	2,934
12	22	212	13	23	85	3	128	11	0	1	1	0	3	480	4	230	3	89	1	21	7	169	6	522	1,002
1	24	557	29	221	70	3	48	17	0	3	0	0	0	948	7	581	0	0	0	0	78	112	0	771	1,719
2	24	497	17	66	31	1	15	20	2	9	0	0	0	660	19	1,307	5	241	1	20	47	163	0	1,778	2,438
3	27	360	21	81	23	23	55	7	0	0	0	0	0	570	2	188	3	65	1	29	41	115	2	440	1,010
合計	296	6,566	437	2,119	1,164	95	1,084	253	9	142	15	1	8	11,893	63	4,673	56	2,185	11	278	1,306	3,797	36	12,278	24,171

(2) 特別展観覧者数

会期	開館日数	有料観覧者												無料観覧者								観覧者合計			
		個人			団体(2割引)			減免(5割引)			減免(5割引)の団体			有料入館者計	小中		園児		他団体		幼児		招待券	引率者	無料入館者計
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中		校	人数	園	人数	数	人数					
	32	3,382	157	561	148	3	28	104	5	3	0	0	0	4,391	5	295	1	5	1	21	394	1,206	0	1,921	6,312
	62	1,878	148	1,295	441	55	559	74	3	14	0	0	0	4,467	7	391	29	1,285	2	30	1,001	2,033	5	4,745	9,212
	32	695	51	104	75	8	261	26	0	2	0	0	0	1,222	2	210	3	112	3	85	52	866	14	1,339	2,561
	34	630	16	47	430	3	44	37	0	3	0	0	0	1,210	17	1,634	5	157	2	37	84	1,143	3	3,058	4,268
	56	1,606	91	109	186	27	16	62	2	8	0	0	0	2,107	21	1,587	1	41	1	20	70	762	0	2,480	4,587
合計	216	8,191	463	2,116	1,280	96	908	303	10	30	0	0	0	13,397	52	4,117	39	1,600	9	193	1,601	6,010	22	13,543	26,940

「鈴鹿や富士を翔けた名車たち」

「太古からの地響き～マンモスが古いなかまをつれてやってきた」

「キャンバスに刻まれた魂～浅野弥衛の世界～」

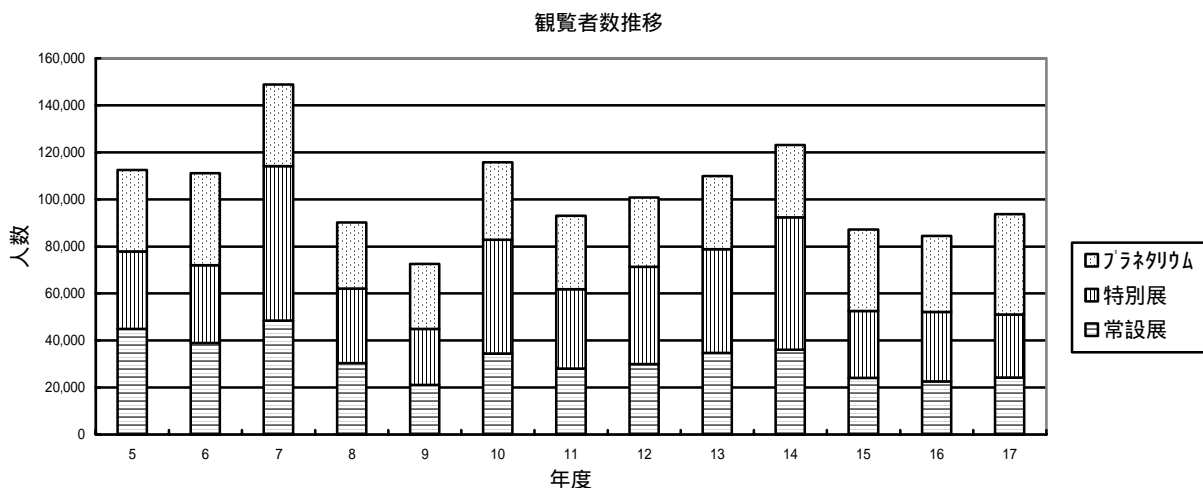
「伊勢の茶陶 萬古焼～古萬古・有節、そして四日市へ」

「聖武東遊～騎馬軍団東へ」

(3) プラネタリウム観覧者数

月	放映回数	有料観覧者													無料観覧者								観覧者合計			
		個人			団体割引(2割引)			減免(5割引)			減免(5割引)の団体			特別放映	有料入館者計	小中		園児		他団体		幼児		招待券	引率者	無料入館者計
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中			校	人数	園	人数	数	人数					
4	62	307	25	145	46	1	11	14	0	5	0	0	0	0	554	0	0	0	0	1	33	189	55	0	277	831
5	74	539	19	191	79	3	216	18	0	9	0	0	0	134	1,208	2	13	2	157	0	0	290	349	21	830	2,038
6	79	804	16	526	157	6	129	9	0	3	0	0	0	84	1,734	3	22	49	1,871	0	0	546	116	0	2,555	4,289
7	106	1,790	38	1,340	366	4	587	49	4	15	0	0	0	132	4,325	5	380	26	1,347	0	0	1,280	394	15	3,416	7,741
8	107	2,345	131	2,303	659	31	735	50	3	29	6	9	14	146	6,461	0	0	0	0	0	0	1,583	1,091	0	2,674	9,135
9	48	684	21	452	101	7	55	5	0	2	7	1	6	42	1,383	5	301	0	0	0	0	444	221	0	966	2,349
10	91	627	30	296	134	2	952	30	1	10	0	0	0	113	2,195	3	262	5	146	1	104	273	113	54	952	3,147
11	97	400	19	173	66	4	494	11	1	3	0	0	1	193	1,365	21	1,943	11	469	2	60	153	710	39	3,374	4,739
12	54	223	32	75	58	9	210	10	0	1	1	0	3	125	747	3	199	3	89	1	16	88	257	8	657	1,404
1	73	398	40	181	125	6	105	11	0	9	0	0	0	0	875	7	450	0	0	1	6	211	201	0	868	1,743
2	75	565	21	222	119	5	40	20	0	7	0	0	0	92	1,091	10	736	9	446	2	17	361	178	2	1,740	2,831
3	85	506	52	262	185	8	106	17	1	8	23	0	0	132	1,300	4	298	4	102	1	29	403	137	3	972	2,272
合計	951	9,188	444	6,166	2,095	86	3,640	244	10	101	37	10	24	1,193	23,238	63	4,604	109	4,627	9	265	5,821	3,822	142	19,281	42,519

(4) 観覧者数推移



	5	6	7	8	9	10	11
常設展	44,996	38,881	48,481	30,359	21,142	34,411	28,052
特別展	32,961	33,209	65,681	31,700	23,804	48,442	33,733
プラネタリウム	34,515	38,966	34,674	28,068	27,661	32,937	31,234
合計	112,472	111,056	148,836	90,127	72,607	115,790	93,019
累計	112,472	223,528	372,364	462,491	535,098	650,888	743,907

	12	13	14	15	16	17
	29,966	34,758	36,058	24,093	22,626	24,171
	41,432	44,082	56,309	28,413	29,498	26,940
	29,317	31,011	30,689	34,591	32,333	42,519
	100,715	109,851	123,056	87,097	84,457	93,630
	844,622	954,473	1,077,529	1,164,626	1,249,083	1,342,713

7 関係法規

四日市市立博物館条例

平成5年3月30日 条例第16号

(注)平成16年12月から改正経過を注記した。

改正 平成9年3月27日条例第3号

平成12年3月29日条例第44号

平成16年12月28日条例第55号

平成17年3月28日条例第22号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、博物館の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、自然科学及び人文科学に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供するとともに、プラネタリウムによる天体運行等の映写を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、四日市市立博物館(以下「博物館」という。)を四日市市安島一丁目3番16号に設置する。

(事業)

第3条 博物館は、前条の設置目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、美術工芸、天文等に関する実物、複製、複写、模型、図書、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示し、及び利用に供すること。
- (2) 博物館資料の利用者に対する説明、助言及び指導に関すること。
- (3) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- (4) 博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究に関すること。
- (5) 博物館資料に関する解説書、目録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 博物館資料に関する講演会、研究会等を開催すること。
- (7) 他の博物館、図書館、学校その他関係機関との連絡及び協力に関すること。
- (8) プラネタリウムによる天体運行等の映写及び天体観測の指導に関すること。
- (9) その他必要な事業

(観覧料)

第4条 博物館資料の展示会場へ入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はこれらに代わるものを提示したものの観覧料の額は、別表第2に定める額とする。

一部改正(平成16年条例55号)

(特別展示室等の使用)

第5条 四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)は、第2条の設置目的に反せず、第3条の事業に支障のない範囲内において、展示発表等のため、博物館の特別展示室、講座室及び市民ギャラリー(以下「特別展示室等」という。)の使用を許可することができる。

2 前項の規定により、特別展示室等を使用しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

3 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める使用料を規則で定める期限までに納付しなければならない。

一部改正(平成16年条例55号・17年22号)

(特別利用の許可等)

第6条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影等をしようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、2,100円の範囲内において規則に定める手数料を納付しなければならない。

一部改正(平成16年条例55号)

(館外貸出し)

第6条の2 博物館資料は、次の各号のいずれかに該当するときは、館外への貸出しをしない。ただし、委員会は、他の博物館、図書館、学校等適当と認めたものについて、博物館資料の館外貸出しを許可することができる。

- (1) 館外貸出しによって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員が認めるとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。
- (3) その他委員会が博物館資料の館外貸出しをすることを不相当と認めるとき。

(入館等の制限)

第7条 委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、博物館への入館を拒否し、若しくは退館を命じ、又は第5条第2項及び第6条第1項の許可をしない。

- (1) 公安、風俗その他公益を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、附属設備等を損傷するおそれがあるとき。
- (3) その他委員会において管理上支障があると認めるとき。

(観覧料、使用料及び手数料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めるときは、観覧料、使用料及び手数料を減額又は免除することができる。

(観覧料、使用料及び手数料の還付)

第9条 既納の観覧料、使用料及び手数料は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第10条 第5条第2項、第6条第1項及び第6条の2の規定により許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、その権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第11条 委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、許可の条件を変更し、又は使用若しくは利用を停止し、若しくは許可を取り消すことができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 許可の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (4) その他委員会において特に必要があると認めるとき。

(特別の設備等)

第12条 使用者は、既存の設備を変更し、又は特別の設備を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の承認を受けなければならない。

(原状回復の義務)

第13条 使用者は、その使用若しくは利用を終了したとき又は第11条の規定により使用若しくは利用を停止され、若しくは許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

2 使用者が前項の義務を履行しないときは、委員会においてこれを執行し、使用者からその費用を徴収する。

(損害賠償)

第14条 使用者は、使用若しくは利用中に建物、附属設備等を損傷又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその

損害を賠償しなければならない。ただし、市長が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第15条 博物館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、法第20条第1項の規定に基づき、博物館に四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、委員会が任命する。
- 協議会の委員の定数は、20人以内とする。
- 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

一部改正(平成16年条例55号)

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第3条第1号(博物館資料の展示及び利用に供する部分に限る。)、第2号及び第8号並びに第4条から第14条までの規定は規則で定める日から(平成5年6月四日市市規則第33号で、同5年11月1日から施行)、次項の規定は平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料館条例の廃止)

2 四日市市立郷土資料館条例(昭和45年四日市市条例第38号)は、廃止する。

附則(平成9年3月27日条例第3号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附則(平成12年3月29日条例第44号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則(平成16年12月28日条例第55号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年2月7日から施行する。

(経過措置)

7 改正後の四日市市立博物館条例第4条、別表第1及び別表第2の規定は平成17年4月1日以後の観覧から、第5条、第6条及び別表第3の規定は平成17年4月1日以降の使用許可申請に係るものから適用する。

附則(平成17年3月28日条例第22号)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日(以下「施行日」という。)から施行する。

(経過措置)

2 改正後の四日市市立博物館条例別表第3備考の規定は、施行日以後の申請にかかるものから適用し、同日前の申請にかかるものについては、なお従前の例による。

別表第1(第4条関係)

区分	博物館常設展示1人1回につき	プラネタリウム1人1回につき	博物館特別展示及びプラネタリウム特別番組1人1回につき
一般	210円	530円	2,100円の範囲内で委員会が定める額
高・大学生	160円	370円	
小・中学生	100円	200円	

備考 20人以上の団体は、1人1回につき規定料金の100分の80の額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

一部改正(平成16年条例55号)

別表第2(第4条関係)

区分	博物館常設展示1人1回につき	プラネタリウム1人1回につき	博物館特別展示及びプラネタリウム特別番組1人1回につき
一般	100円	250円	1,050円の範囲内で委員会が定める額
高・大学生	80円	180円	
小・中学生	50円	100円	

備考 20人以上の団体は、1人1回につき規定料金の100分の80の額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

追加(平成16年条例55号)

別表第3(第5条関係)

区分	午前	午後	全日
	午前9時30分から正午まで	午後1時から午後5時まで	午前9時30分から午後5時まで
特別展示室			31,500円
講座室	8,400円	12,600円	21,000円
市民ギャラリー			2,100円

備考 使用者が観覧料、受講料その他これらに類するものを徴収する場合は、上記の金額に100分の50を乗じて得た額を加算する。

一部改正(平成16年条例55号・17年22号)

四日市市立博物館条例施行規則

平成5年3月31日 教委規則第5号

(注)平成14年12月から改正経過を注記した。

改正 平成9年3月28日教委規則第9号

平成11年3月11日教委規則第4号

平成12年3月27日教委規則第7号

平成14年12月27日教委規則第11号

平成17年2月3日教委規則第31号

(趣旨)

第1条 この規則は、四日市市立博物館条例(平成5年四日市市条例第16号。以下「条例」という。)第16条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 四日市市立博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)が特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その翌日とする。

(2) 12月29日から翌年1月3日まで

一部改正(平成14年教委規則11号)

(観覧の手続)

第4条 博物館資料の展示会場に入場しようとする者及びプラ

ネタリウムの映写を観覧しようとする者は、観覧料の納入の際に観覧券の交付を受け、展示室及びプラネタリウム室の入口においてこれを係員に提示又は提出しなければならない。

(使用許可の申請)

第5条 条例第5条第2項の規定により、特別展示室等の使用の許可を受けようとする者は、四日市市立博物館使用許可申請書(第1号様式。以下「申請書」という。)により委員会に申請しなければならない。

2 前項の申請の受付は、使用しようとする日(引き続き2日以上使用しようとする場合は、その最初の日をいう。以下「使用日」という。)の属する月の初日前6月からとする。

3 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、前項に定める期間前に受付できるものとする。

(1) 四日市市又は委員会が行う事業又は主催する行事に使用するとき。

(2) その他委員会が特に必要があると認めるとき。

4 第1項に規定する申請書の受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、休館日の受付は行わない。

(使用の許可)

第6条 委員会は、前条第1項の使用許可の申請について適当と認めるときは、使用の許可を決定し、四日市市立博物館使用許可書(第2号様式。以下「許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

2 博物館の使用について許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、博物館使用の際に、前項の許可書を係員に提示し、指示を受けなければならない。

(使用の変更及び取消し)

第7条 使用者は、許可書に記載された事項を変更し、又は施設の使用を取り消そうとするときは、四日市市立博物館使用変更(取消)許可申請書(第3号様式)に許可書を添えて委員会に提出しなければならない。

2 委員会は、前項の規定により使用の変更又は取消しを許可したときは、四日市市立博物館使用変更(取消)許可書(第4号様式。以下「変更(取消)許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(附属設備の名称及び使用料の額)

第8条 博物館の附属設備の使用料の額は、別表第1に定める額とする。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(使用料の納付)

第9条 使用者は、使用の許可と同時に使用料を納付しなければならない。

2 官公署が使用する場合にあっては、前項の規定にかかわらず、別に納付期限を定めることができるものとする。

(観覧料の減免)

第10条 条例第8条の規定に基づく観覧料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

(1) 四日市市及び三重郡に所在する学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する小学校、中学校の児童、生徒が学校教育の一環として教職員に引率されて常設展示、プラネタリウム及び特別展示を観覧するとき。10割

(2) 博物館が開催する特別展示を観覧料を納付して観覧したものが、引き続き常設展示を観覧するとき。10割

(3) その他委員会が特別の事由があると認めるとき。その都度委員会が定める割合

2 前項の場合において、減額後の額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

3 第1項第1号に定める観覧料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館観覧料減免申請書(第5号様式)に、減

免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(優待券等)

第11条 委員会が特に必要と認めるときは、優待券、招待券及び特別展示前売観覧券を発行することができる。

(使用料の還付)

第12条 条例第9条ただし書の規定により使用料を還付する場合及び還付する額は、次に掲げるとおりとする。

還付する場合	還付する額
ア 災害等特別の事由により、使用者の責めによらない場合において使用できなかったとき。	使用料の全額
イ 使用者が使用日の前7日以前に使用許可の取消しを申請し、許可されたとき。	既納の使用料から取消料(使用料から消費税及び地方消費税に相当する額を除いた額の100分の50に相当する額。ただし、10円未満の端数が生じた場合は、これを四捨五入した額とする。)を差し引いた額

2 使用者が第7条の規定により博物館の使用の変更を許可された場合において、既納の使用料に過納金が生じたときは、これを還付するものとする。

3 前2項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、四日市市立博物館使用料還付申請書(第6号様式)に第1項表アの場合にあっては許可書と使用料領収書、同項表イ及び前項の場合にあっては変更(取消)許可書と使用料領収書を添えて委員会に申請しなければならない。

4 委員会は、前項の申請を受理し、還付を決定したときは、四日市市立博物館使用料還付決定通知書(第7号様式)を申請者に交付するものとする。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(使用者の遵守事項)

第13条 博物館に入館する者、使用者及び条例第6条第1項の規定により許可を受けた者(以下「使用者等」という。)は、条例及びこの規則に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 使用を許可されていない施設を使用し、又は立ち入らないこと。

(2) 所定の場所以外で喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(3) 許可を受けないで張り紙をし、又はくぎ類を打ち、建物その他の物品をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。

(4) 騒音を発し、暴力を用いるなど他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(5) その他委員会が定める事項及び係員の指示に従うこと。

(職務上の立入り)

第14条 使用者等は、係員の職務上の立入りを拒んではならない。

(施設等の損傷の届出)

第15条 使用者等は、施設、附属設備等を損傷又は滅失したときは、直ちに理由を付して委員会に届け出なければならない。

(使用後の届出及び点検)

第16条 使用者等は、条例第13条の規定により施設、設備等を原状に復したときは、速やかに委員会に届け出るとも

に、その点検を受けなければならない。

(特別利用の許可の申請)

第17条 条例第6条第1項の規定に基づき、特別利用の許可を受けようとするものは、四日市市立博物館資料特別利用許可(減免)申請書(第8号様式)を委員会に提出しなければならない。

2 委員会は特別利用の許可をしたときは、四日市市立博物館資料特別利用許可書(第9号様式)を交付するものとする。

3 四日市市立博物館資料特別利用許可書の交付を受けたものは、直ちに条例第6条第2項に基づく手数料を納付しなければならない。

4 前項に定める手数料の額は、別表第2に定める額とする。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(手数料の減免)

第18条 条例第8条の規定に基づく手数料の減額又は免除の範囲は、辞のとおりとする。

(1) 市、県又は国若しくは他の地方公共団体が行う教育、学術若しくは文化の事業又はこれらの事業の普及の用途に供することを目的とするとき。10割

(2) 私立の博物館、図書館、学校等が行う教育又は研究の用途に供することを目的とするとき。10割

(3) 主に学術研究の用途に供することを目的とするとき。10割

(4) その他委員会が特別の事由があると認めるとき。その都度委員会が定める割合

2 前項の場合において、減額後の額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

3 第1項に定める使用料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館資料特別利用(減免)申請書(第8号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

一部改正(平成17年教委規則31号)

(特別利用の制限)

第19条 次の各号のいずれかに該当するときは、特別利用の許可をしない。

(1) 特別利用によって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めるとき。

(2) 現に博物館資料が展示されているとき。

(3) 寄託された博物館資料で寄託者の同意を得ていないとき。

(4) 著作権がある博物館資料で著作者の承諾を得ていないとき。

(5) その他委員会が特別利用をすることが不適当と認めるとき。

(館外貸出しの許可等)

第20条 条例第6条の2ただし書きの規定により、博物館資料の館外貸出しを受けようとするものは、あらかじめ四日市市立博物館資料館外貸出許可申請書(第10号様式)を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

2 委員会は、博物館資料の館外貸出しを認めた場合は、四日市市立博物館資料館外貸出許可書(第11号様式)を交付するものとする。

3 博物館資料の館外貸出しの期間は、1月以内とする。ただし、委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(協議会の委員長及び副委員長)

第21条 条例第15条に規定する四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に、委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によって選出する。

2 委員長及び副委員長の任期は、委員としての在任期間と

する。

3 委員長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第22条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、定例会及び臨時会とし、定例会は、年2回、臨時会は必要に応じて開催する。

2 会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第23条 協議会の庶務は博物館において処理する。

(補則)

第24条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

一部改正(平成17年教委規則31号)

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第2条から第20条までの規定は、条例附則ただし書きに規定する規則で定める日から、次項の規定は、平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料館条例施行規則の廃止)

2 四日市市立郷土資料館条例施行規則(昭和45年四日市市教育委員会規則第5号)は、廃止する。

附則(平成9年3月28日教委規則第9号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附則(平成11年3月11日教委規則第4号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則(平成12年3月27日教委規則第7号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附則(平成14年12月27日教委規則第11号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附則(平成17年2月3日教委規則第31号)

(施行期日)

1 この規則は、平成17年2月7日から施行する。ただし、四日市市立博物館条例施行規則第2条の改正は、平成17年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の四日市市立博物館条例施行規則第8条、第12条、第17条、第18条、別表第1及び別表第2の規定は、平成17年4月1日以後の使用又は利用許可申請に係るものから適用する。

別表第1(第8条関係)

区分	使用料(一回一式)
16ミリ映写機	2,100円
スライド映写機	1,050円
プロジェクター	1,050円

一部改正(平成17年教委規則31号)

別表第2(第17条関係)

区分	手数料(一点一日)
熟覧	320円
模写	1,050円
拓本	1,050円
撮影	1,050円

施設概要

所在地 〒510-0075
三重県四日市市安島一丁目3番16号
電話 059-355-2700(代)
FAX 059-355-2704

施設規模 敷地面積 1,845.840 m²
建設面積 1,590.397 m²
延床面積 10,147.108 m²
建物構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下2階地上6階
建物の高さ 38.075m
建物イメージ
歴史(石を用い古典的な様式)
現代(石、土ものの自然素材と金属、ガラスなどの組み合わせによる新旧共存)
未来(金属板の仕上げ
=プラネタリウム)
色彩イメージ
1階 海 青
2階 大地 橙
3階 草花 黄
4階 山脈 緑
5階 空(宇宙) シルバーメタリック
地域・商区
商業地域・防火地域
建ぺい率100%(耐火)、容積率600%

主な室名と面積
展示・教育部門 2,156.155 m²
常設展示室 2階 564.691 m²
" 3階 454.618 m²
特別展示室 4階 594.798 m²
ラウンジ 2~4階 281.02 m²
情報コーナー 1階 118.81 m²
講座室 1階 142.218 m²
収蔵部門 1,256.23 m²
第1収蔵庫 地下2階 243.29 m²
" 前室 地下2階 38.88 m²
第2収蔵庫(恒温恒湿) 地下1階 282.17 m²
第3収蔵庫 地下1階 384.496 m²
" 前室 地下1階 76.086 m²
荷解室 1階 231.308 m²
研究部門 430.207 m²
作業室 2階 60.464 m²
資料整理室 地下1階 84.37 m²
文献資料室 3階 37.952 m²
資料評価室 4階 33.3 m²
燻蒸室 地下1階 43.07 m²
スタジオ暗室 地下1階 87.51 m²
ビデオ編集室 地下1階 16.882 m²
第2会議室 4階 37.952 m²
第3会議室 3階 28.707 m²
プラネタリウム部門 1,714.282 m²
客席(ドーム) 5・6階 565.017 m²
天文学習室 5階 59.081 m²

天文展示コーナー 5階 194.763 m²
天文係事務室 5階 59.326 m²
空調機械室 5・6階 836.095 m²
管理・一般部門 4,590.234 m²
事務室 3階 105.059 m²
館長室 2階 37.001 m²
第1会議室 2階 50.422 m²
ミュージアムショップ 1階 28.723 m²
警備室 1階 20.812 m²
中央監視室 地下2階 44.064 m²
設備機械室 地下2階 486.190 m²
電気室 発電機室 地下2階 240.152 m²
倉庫、展示備品庫など 3,577.811 m²

プラネタリウム(1,714 m²)
ドーム径18.5m 傾斜型(斜度20度) 164席
GSSヘリオス(五藤光学研究所)
7.4等星 25,000個の恒星が投射可能
分離型惑星投射機 9台
スカイライン投射機(80+80シーン)
マルチイメージシステム
マルチサウンドシステム
全天周映画 可能
アストロビジョン70(10パーフォーレーション)
プラネタリウムとの同期可能(ショートフィルム)

主な施工業者

建築 (株)鴻池組 三菱建設(株) 丸藤建設(株)
電気 (株)電工社 四日市電機(株)
設備機械 須賀工業(株) ダイダグン(株) 三東工業所
プラネタリウム (株)五藤光学研究所
建築設計 (株)石本建築事務所
展示設計 (有)ササキ企画
展示 商工美術(株)
展示映像 中部松下システム(株)
ハイビジョン 中部松下システム(株)
陶壁 萬古環境造形体

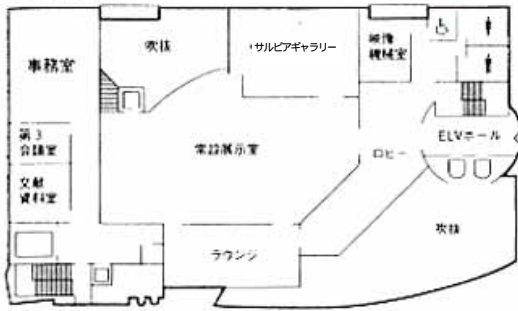
設備概要

空調設備
1.空調熱源機器設備
スクリー冷却機
(冷房能力293,000Kcal/h[97URST])
暖房能力254,000Kcal/h) 2基
スクリー冷却機用空気熱交換機 2基
送風機(低騒音型3,400 m²/min) 3台
蓄熱槽
2.空調、換気及び排煙機器設備
空調機
エアハンドリングユニット 9基
パッケージ型空調機 30基
ファンコイルユニット 20基
全熱交換機 5基
送、排風機
シロッコファン 2基
軸流ファン 8基
ラインファン 13基

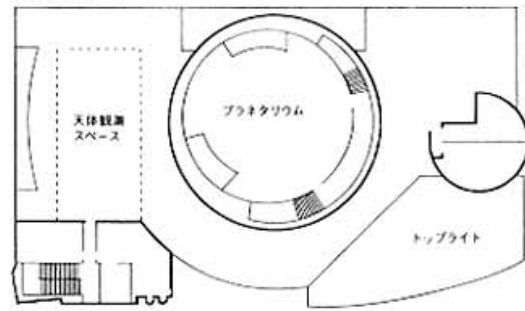
消音ボックス付ラインファン	20 基	CCD	1 台
デリベントファン	1 基	モニターテレビ	5 台
排煙ファン	3 基	防火扉	47 箇所
排煙口	25 基	防火・防災シャッター	32 箇所
3. その他機器		排煙口	28 箇所
フィルターユニット		電気設備	
外気新鮮空気処理ユニット	3 基	受電電圧 交流 3 相 3 線式 660V 60Hz	
消音マフラーユニット	9 基	変圧器	
その他付属設備	一式	動力用	
4. 空調配管設備		3 相 6.6KV/210V 300KVA	1 台
空調用ポンプ	14 基	3 相 6.6KV/210V 500KVA	1 台
冷温水 2 次ポンプ可変速制御盤	1 基	3 相 6.6KV/210V 150KVA	2 台
冷水ヘッダー	2 基	3 相 6.6KV/440V 500KVA	1 台
温水ヘッダー	2 基	電灯用	
冷温水用防蝕装置	4 基	1 相 6.6KV/210V/105V 300KVA	2 台
その他付属設備	一式	1 相 6.6KV/210V/105V 100KVA	1 台
給排水衛生設備		自家用発電機	
1. 給水設備		6 気筒 4 サイクルディーゼル機関	
ポンプ 揚水ポンプ	2 基	480Ps 1200rpm	1 台
受水槽 有効容量 12.7 m ²		3 相交流同期発電機 400KVA 6600V	1 台
(2 分割-複合盤)	1 基	電線路電圧 6600V 440V 210V 105V	
高架水槽 有効容量 6.3 m ²		電気室 高低圧配電盤	19 面
(2 分割-SUS444)保温付	1 基	動力制御盤	15 面
電機湯沸器 貯湯量 10 ㍓	3 基	電灯分電盤	21 面
ウォータークーラー		端子盤	12 面
壁埋込式、ステンレス製	2 基	低圧回路	
冷水能力 30l/㍓	2 基	低圧負荷設備	
その他付属設備	一式	電動機合計容量 1,123.023KW	130 台
2. 排水設備		電灯コンセント合計容量 476KVA	2,115 個
公共下水道接続箇所		直流電源装置	
湧水排水ポンプ	6 基	100V 非常照明用 発変電設備機器操作用	
雑水排水ポンプ	2 基	全自動サイリスター式整流器	
雨水排水ポンプ	2 基	(入力 交流 3 相 200V 60Hz	
燻蒸設備(真空殺虫殺菌装置)	3.15 m ²	直流出力電流 50A 3 相全波整流)	1 面
消防設備		蓄電池 ペースト式高率放電用鉛蓄電池	2V x 54 セル
屋内消火栓ポンプ	1 基	交流無停電電源装置	
屋内消火栓設備		100V 中央監視装置用	
屋内消火栓箱	12 基	商用同期常時インバーター給電方式	
屋内消火栓箱(併設型)	4 基	(交流入出力 単相 2 線式 100V 60Hz	
連結散水設備 閉鎖型(8 系統)	一式	出力容量 5KVA)	
八口消火設備 7 系統		電気時計 水晶発信式 6 回路	
(特別展示室、第 1・2・3 収蔵庫、		親時計 1 台 子時計 41 台	
前室、電気室、発電機室)	一式	放送設備 防災アンプ 480W	20 回路
救助袋 3-5 階	6 台	電話設備 デジタル電子交換機	一式
自動火災報知設備		多機能電話機	15 台
差動スポット感知器	6 個	一般電話機	37 台
定温スポット感知器	14 個	テレビ共聴設備 CATV 引込(CTY)	
煙感知器	384 個	中央監視設備	
炎感知器	4 個	SAVIC-NET50 による監視システム	
非常放送設備	一式	エレベータ	
消火器	38 本	1.2 号 乗用(展望用) 定員 17 名 1150Kg	90m/分
誘導灯設備 避難口誘導灯	54 台	3 号 乗用 定員 11 名 750Kg	105m/分
通路誘導灯	39 台	4 号 人荷用 定員 67 名 4400Kg	30m/分
客席誘導灯	22 台	5 号 乗用 定員 11 名 750Kg	30m/分
その他付属設備		その他設備 昇降リフト(2ト、荷解室)	1 台
防犯設備		ゴンドラ(ガラス清掃用)	2 台
防犯設備 熱感センサー	46 個	自動扉	4 箇所
監視カメラ 1-4 階 カラードーム型	16 台		

館内見取図

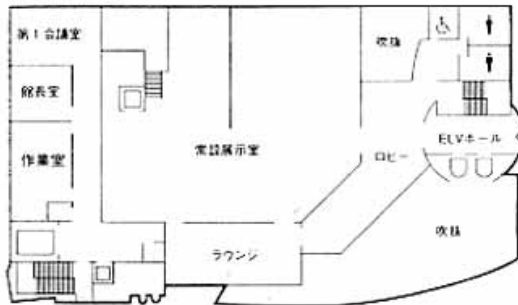
3階平面図



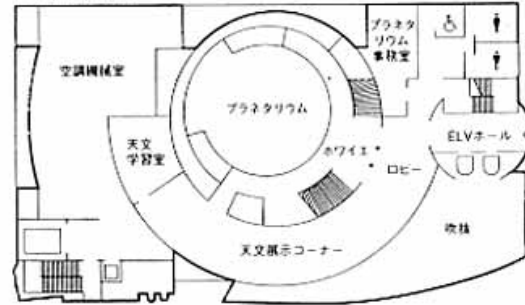
6階平面図



2階平面図



5階平面図



1階平面図



4階平面図



地下1階平面図



地下2階平面図



設計概要

敷地は、旧四日市工業高等学校跡地の一角で、街区には、都市公園を介して地場産業振興センター、アムスクエアなどがあり、それらとの調和を図る必要があった。そこで、形態的には都市公園を介してオープンなアトリウムで呼応しあう関係を生み出し、色調的にはアムスクエアのグレイッシュピンクと補色関係にあり、色の映える淡緑青色を基調としている。

外観デザインとしては、博物館とプラネタリウムという複合した機能を持つ建物の性格上、「過去」(歴史)、「現在」、「未来」(宇宙)の調和をテーマとしている。そのことは、基壇部において花崗岩のジェットバーナー仕上げで歴史の積層をイメージし、胴部において割肌タイルにより工業化が進んだ現代だからこそ逆に求められる手造りのなあたかさ、やさしさを表現し、頂部においてステンレスの球体を一部露出させ、未来的、宇宙的なイメージを喚起して、それらの三層構成による対比と調和を図っている。また、都市公園に面する東側はボリュームの大きさからくる威圧感を低減するために、面を分節化し、水平線を強調したガラスのカーテンウォール、地上の緑が階段状に延長した濃緑色の石貼部、太陽光線をイメージした黄色の垂直線、コンビナートのメタファーとしての金属のパイプや球体により、リズムカルで変化のある構成としている。

内部機能構成としては、地下部分に収蔵部門、1階にエントランス、2～4階に博物館部門、5、6階にプラネタリウム部門を収め、地上部分に5層吹抜のアトリウムを設けることにより積層化した施設の空間的な一体感を生み出す計画としている。また、都市公園に対してオープンな構成とし、それを借景として利用することで空間的な広がりを持たせている。

(石本建築事務所)

利用案内

博物館を彩る施設(無料利用できる部分)

エントランスホール(1階)

入口を入ると5階まで吹き抜けているアトリウムとシースルーエレベータが目を引きまします。ここは誰でも入れる自由空間。待ち合わせに最適な場所です。



情報コーナー(1階)

4台のモニターで、四季にわたり四日市各地に伝わる伝承行事を入館者が自由に見ることができます。また、歴史・自然・美術工芸などの書籍も自由に閲覧できます。

ミュージアムショップ(1階)

来館の思い出となる記念品や、市・博物館が刊行する図録等の書籍を販売。鉱物や化石、星座グッズなども取りそろえています。



陶壁(2階ロビー)

四日市市の歴史、美術資料の展示効果と現代建築における陶の材質美との調和を図るため、通路を歩く人の動きとともに画面が変化する一種のだまし絵的效果を意図した。(高さ2.5m 幅5.0m)

A面: 歌川広重作 東海道五十三次「四日市の図」

B面: 歌川國貞作 未広五十三次「屋気楼の図」

これらを四日市萬古焼の伝統技法により焼成。

制作: 萬古環境造形体

平成 17 年度四日市市立博物館年報 第 13 号

平成 18 年 8 月 20 日発行
編集・発行 四日市市立博物館
〒510-0075 四日市市安島一丁目 3 番 16 号
TEL 059-355-2700(代)
FAX 059-355-2704
<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>